

詩篇 22篇 神の救いを信じる共同礼拝

キリストにある兄弟姉妹の皆さん、おはようございます！皆さんの前に立ち、神の御言葉を宣べ伝えることができるこの機会に、心から感謝し、身の引き締まる思いです。この数週間、ご存じのように私たちは詩篇の学びを続けてきました。ベン牧師とキヨさんは、さまざまな詩篇が私たちの集いや礼拝の仕方とどのように関連しているかを私たちが理解できるように助けてくれました。今朝も同じことをしたいと思いますので、皆さんも聖書を開いて、私が語る言葉を神の御言葉と照らし合わせてみてください。このシリーズの最後の詩篇に入る前に、詩篇は多くの異なる作者によって書かれた多くの賛美歌、詩、聖歌をまとめた収集であることを覚えておく必要があります。これらの詩や歌は、賛美、嘆き、預言、教訓など、さまざまなジャンルに分類することができます、そのどれもが、神の民を導き、神と神の御国について教えるために用いられました。

詩篇22篇の背景

本日の詩篇22篇が興味深いのは、この詩篇が嘆きとメシアの詩篇という2つのジャンルの部分で構成されていることです。典型的な嘆きの詩篇は、作者の現況に対する嘆きや不満、願い、神への賛美や信頼といった要素を含むものです。メシア詩篇は、私たちがイエス・キリストとして知るようになったメシア、すなわち約束された救い主の到来を指し示す詩篇です。

注目すべきは、新約聖書の中でこの詩篇22篇ほど言及されている詩篇は他になく、福音書記者、特にマタイとヨハネは、特にイエスが十字架にかかる最後の瞬間にこの詩篇を多く引用しています。それらは以下の通りです：

- 見捨てられた叫び (詩篇22:1、マタイ27:46、マルコ15:34)
- 敵のあざけり (詩篇22:7-8、マタイ27:43、ルカ23:35)
- 骨々がはずれる苦しみ (詩篇22:14)
- 渇き (詩篇22:15、ヨハネ19:28-29)
- 貴かれた手足 (詩篇22:16、ヨハネ20:27)
- 群衆のほくそえみ (詩篇22:17、マタイ27:39-40)
- 衣服のくじ引き (詩篇22:18、マタイ27:35、マルコ15:24、ヨハネ19:23-24)

説教原稿を手にとられた方は、今読み上げたリストをご覧になるとと思いますが、個人的な勉強のために、ぜひ時間をかけて目を通してみてください。

ダビデとは誰でしょうか (上付き文字)

長い前置きの後、今日の箇所の冒頭を見てみましょう。聖書の詩篇22篇を開いて、章の見出しのすぐ後の上付き文字と呼ばれているイタリック体の文を見てください。そこには、**指揮者のために。「暁の雌鹿」の調べにのせて。ダビデの賛歌。**と書かれてあります。ベン牧師が以前述べたように、上付き文字は古文書の一部であり、詩篇の文脈を示すのに役立っています。この場合、暁の雌鹿の曲がどのようなものであったかは不明ですが、神がイスラエルを治めるために選んだ王であるダビデによって書かれたものであることはわかります。

王であり、型であり、預言者である

王たち、特にイスラエルの王らは、神に選ばれた民を導くために神に選ばれた者として、重要な役割を果たしました。彼らは神の戒めを守り、イスラエルの民に教えなければならなりません。王たちは国を代表し、最終的には神を象徴しました。ダビデ王は、他のすべての王の基準となる王とされています。また、神はダビデの家族を通して、永遠に支配する救い主（キリスト）なる王を約束されました。このことから、ダビデはキリストの型と見ることもでき、彼の人生と役割は約束された救い主のそれを予示するものでした。福音書記者たちは、ダビデをイエスについて語った預言者として認めています（マタイ22:41-43、ルカ24:44、使徒2:30-31）。ダビデの王として、キリストの型として、預言者としての役割が、この詩篇を通して私たちに導いてくれるでしょう。なぜなら、ダビデが語っているのはダビデ自身の経験ではありますが、その言葉は彼自身の経験を越えて、イエス・キリストの経験と直接一致しているからです。このことを発見するために読み進めましょう。

ダビデの嘆きと神の過去の誠実さへの確信 22篇1-10節

わが神 わが神 どうして私をお見捨てになったのですか。私を救わず 遠く離れておられるのですか。私のうめきのことばにもかかわらず。

2 わが神 昼に私はあなたを呼びます。しかし あなたは答えてくださいません。夜にも私は黙っていません。

3 けれども あなたは聖なる方 御座に着いておられる方 イスラエルの賛美です。

4 あなたに 私たちの先祖は信頼しました。彼らは信頼し あなたは彼らを助け出されました。

5 あなたに叫び 彼らは助け出されました。あなたに信頼し 彼らは恥を見ませんでした。

6 しかし 私は虫けらです。人間ではありません。人のそしりの的 民の蔑みの的 です。

7 私を見る者はみな 私を嘲ります。口をとがらせ 頭を振ります。

8 「主に身を任せよ。助け出してもらえばよい。主に救い出してもらえ。彼のお気に入りなのだから。」

9 まことに あなたは私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。

10 生まれる前から 私はあなたにゆだねられました。母の胎内にいたときから あなたは私の神です。

ここでは、1節から5節でダビデが主に見捨てられたと感じ、6節から10節では民に見捨てられたと感じ、主に向かって叫んでいるのを見ます。この詩篇がダビデの人生のどの時期に書かれたものなのかは全く不明ですが、彼の言葉遣いから、この時期が彼にとってどれほど厳しいものであったかをはかり知ることができます。神から見捨てられたという彼の感情は、十字架上のキリストの叫びを予示します。すなわち、**マタイ 27章 46節 46 イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」**これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。しかし、そのような思いにもかかわらず、詩篇の作者は「けれども」というキーワードを使って、不満を確信に変えています。ダビデは決して希望を失わず、3節から5節でイスラエルの父祖たちに対する神の誠実さを思い出し、9節から10節で自分の人生における神の誠実さを思い出しています。この神への確信と信仰があったからこそ、ダビデは、たとえ周囲の誰もが7節から8節で自分をあざけていたとしても、叫んで神に助けを求めることができたのです。同じように、キリストがゲッセマネの園で祈っておられたとき、杯を取り去ってくださるように懇願された後、確信をもって御父と御心に信頼を置かれました。**マルコ書 14章 36節 36 しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。**

ダビデの嘆きと嘆願 22篇 11-21節

ダビデは続けます。

11 どうか 私から遠く離れないでください。苦しみが近くにあり 助ける者がいないのです。

12 多くの雄牛が私を取り囲み バシヤンの猛者どもが私を囲みました。

13 彼らは私に向かって 口を開けています。かみ裂く 吼えたける獅子のように。

14 水のように 私は注ぎ出され 骨はみな外れました。心は ろうのように 私のうちで溶けました。

15 私の力は 土器のかげらのように乾ききり 舌は上あごに貼り付いています。死のちりの上に あなたは私を置かれます。

16 犬どもが私を取り囲み 悪者どもの群れが私を取り巻いて 私の手足にかみついたからです。

17 私は 自分の骨をみな数えることができます。彼らは目を凝らし 私を見ています。

18 彼らは私の衣服を分け合い 私の衣をくじ引きにします。

19 主よ あなたは離れないでください。私の力よ 早く助けに来てください。

20 救い出してください。私のたましいを剣から。私のただ一つのを犬の手から。

21 救ってください。獅子の口から 野牛の角から。あなたは 私に答えてくださいました。

ダビデは嘆きと短い願いを述べて11節の前半でこの後に何が起こるのかを予告しています。ダビデは13-16節で敵からの迫害を動物の描写で表現し、17-18節で自らの状態を伝え、最後に19-21節で神への願いを述べています。ここに書かれている動物たちは、ダビデの敵を鮮明にイメージさせてくれます。雄牛やライオンは非常に力の強い動物であり、ここに登場する犬も、今私たちが飼っているかわいらしいペットとは違う、野生の危険な猛獣です。(オーストラリアにいる野犬のディンゴのようなものでしょうか) さて、いまにもあなたに危害を加えようとするこの3匹の猛獣たちのいる檻に放り込まれた自分を想像してみましょう。それが、詩篇の作者が私たちに見せたい、自分の置かれた状況についての無力感と恐怖の状況なのです。しかし、ダビデはこのような状況にもかかわらず、自分の助けである主に立ち返り、自分の置かれた状況を変えてくださるよう主に願い求めます!(ダビデはまた、動物の比喻を続けながら、今度は逆の順序で、とても美しく詩的な方法で行います!) ダビデは神に、19節で**早く助けに来てください**、20節から21節で自分を死から救ってくださいと頼みます。その懇願の後に、締めくくりの最後の句でダビデの神への全幅の信頼と確信を垣間見ることができます。

ダビデの賛美(22:22-31)

彼はこう言います。

22 私は あなたの御名を兄弟たちに語り告げ 会衆の中であなたを賛美します。

23 主を恐れる人々よ 主を賛美せよ。 ヤコブのすべての裔よ 主をあがめよ。イスラエルのすべての裔よ 主の前におののけ。

24 主は 貧しい人の苦しみを蔑まず いとわず 御顔を彼から隠すことなく 助けを叫び求めたとき 聞いてくださった。

25 大いなる会衆の中での私の賛美は あなたからのものです。私は誓いを果たします。主を恐れる人々の前で。

26 どうか 貧しい人々が食べて満ち足り 主を求める人々が主を賛美しますように。 —あなたがたの心がいつまでも生きるように—

27 地の果てのすべての者が 思い起こし 主に帰って来ますように。 国々のあらゆる部族も あなたの御前にひれ伏しますように。

28 王権は主のもの。主は 国々を統べ治めておられます。

29 地の裕福な者はみな 食べてひれ伏し ちりに下る者もみな 主の御前にひざまずきます。自分のたましいを生かすことができない者も。

30 子孫たちは主に仕え 主のことが 世代を越えて語り告げられます。

31 彼らは来て 生まれてくる民に 主の義を告げ知らせます。主が義を行われたからです。

この詩篇におけるダビデの転換は、あまりにも突然で劇的であり、彼の始めたかとはあまりにも異なっています。見捨てられ、不平不満の激しい感情から始まったものが、兄弟たちと共に神の御名を讃えるようになっていきます。28節から31節でダビデは死からの救いと未来の王国について神を賛美します。そしてダビデは、その賛美を22節で兄弟たちから、23節でヤコブ、イスラエルの息子たちへ、そして27節から31節ですべての国々とこれからの世代へと広げていきます。ダビデは、彼の困難な状況において神の助けが遅れたにもかかわらず、神は究極的な正義を守り、王を死から救われたので、すべての世代に神の死からの救いの証を聞いてほしいと願っています。詩篇22篇は、忠実さゆえに経験する苦しみの良い模範を示しています。ダビデは自分の困難を主に訴え、神の過去の誠実さに信頼と希望を置きます。そして、自分の願いを率直に伝え、神への賛美を献げます。しかし、それ以上に、詩篇のダビデの言葉は、私たちが死から救い出してくださるお方、イエス・キリストを指し示しています。私たちの知る限り、ダビデが14-15節と17節に記しているように、自分の外見が醜く損なわれるほどの経験をした時を知りません。聖書は、ダビデの骨が関節から外れたり、舌が顎にくっついたり、手足に釘を打ち込まれ

たり、18節で人々が彼の服のためにくじを引くようなことがあったとは書かれていません。しかし、ダビデも預言者であったので、これはダビデが知ることのなかった十字架刑を描いているのだと理解できます！詩篇22篇は、ダビデの家系から生まれた待望のメシアであるイエス・キリストの苦難そのものを描写しているのです！**マタイ書27章39-46節**にはこうあります。：

マタイの福音書 27章39~46節

39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。40 「神殿を壊して三日で建てた人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。43 彼は神に抛り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

キリストが私たちの罪のために自ら進んで十字架上で死なれたことが私たちを死から救ったのです。彼は民を代表し、私たちの罪の罰を受けた王です。イエスは、ダビデが描写したように、またマタイが福音書を当時読んだすべての人のために、そして今読む私たちのために確認したように、主と御心に信頼しながらも、神に見捨てられ、敵の前に弱くなり、肉体が滅ぼされるのを体験されたのです。

だからこそ、私たち信仰者は、ダビデが証しする救いを経験した者として、神に賛美を献げるべきなのです。なぜなら、私たちは必ず苦しみを経験するときがあり、いますでに経験されている人もいるかもしれませんが、私たちには真実で、すでに救ってくださった神がおられるからです。ですから、私たちの日曜ごとの集会は共にイエス・キリストの福音を心からほめ歌い、心の耳で聞き、生きるとき、私たちは互いに強め合い、助け合うのです。

兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音、すなわち私たちの救いは、決して聞き飽きることのないものです！私たちの生活は福音中心でなければなりません！ダビデ王がすべての人にこの福音を宣べ伝え、教えるよう願ったのもそのためであり、マタイの福音書28章19-20節でイエスご自身が旅立たれる前に弟子たちにそうするように命じたのもそのためです。だから、あなたがクリスチャンになって何年経とうが、1ヶ月しかたっていないくとも、自分自身に、家族に、友人に、日本の国に、そして全世界に対して、この真理を定期的に覚え伝える必要があります。そして今日、神の恵みによって、私たちは主の晩餐を通して、その救いを共に覚え、互いに教え合うことができます。結局のところ、イエスご自身が、ご自分の民である信者たち、つまり教会のためにしてくださったことを記念するこの方法を私たちに教えてくださったのです。

さて、未信者の皆さん、あなたが今日私たちの集まりに加わってくださったことを嬉しく思います。福音が私たちの人生をどのように変え、また変え続けているかを知っていただけたなら幸いです。もしあなたが詩篇の作者のように困難な時を過ごしておられたり、他のすべてのことがうまくいかないと感じておられるようならば、良い知らせがあります。苦しみを乗り越え、死に勝利した王がおられます。その勝利にあなたも与ることができます。あなたがすべきことは、ただ一つ、永遠の王であるイエス・キリストに信頼と確信を置くことです。ダビデの最後の陳述です。

28 王権は主のもの。主は国々を統べ治めておられます。

29 地の裕福な者はみな 食べてひれ伏し ちりに下る者もみな 主の御前にひざまずきます。自分のたましいを生かすことができない者も。

30 子孫たちは主に仕え 主のことが 世代を越えて語り告げられます。

31 彼らは来て 生まれてくる民に 主の義を告げ知らせます。主が義を行われたからです。

祈りましょう。

Psalm 22 Corporate Worship Focuses on God's Salvation

Good morning, brothers and sisters in Christ! I am truly grateful and humbled by this opportunity to stand before you and preach the Word of God. If you've been with us for several weeks, you would know that we have been going through the book of Psalms. Pastor Ben and our Brother Kiyō have helped us see how the different psalms relate to our corporate gathering and how we worship. I hope to do the same today so I invite all of you to have your Bibles open so that you can examine the words I say with that of God's Word. Before we dive into the final psalm in our series, it would be good to remember that the book of Psalms is a collection of many poems and songs written by many different authors. These songs and poems could be grouped into different genres such as praise, lament, prophetic, and didactic but all of them were used to lead and teach the people of God about who He is and His Kingdom.

Background of the Psalm (Background)

Our psalm for today is no different but what makes Psalm 22 interesting is that it falls into two genres: a lament and a Messianic psalm. The typical lament psalm is one that contains these elements: a lament or complaint about the author's current situation, a petition, and praise or confidence in God. A Messianic psalm is one that points forward to the Messiah, or the promised Savior, whom we come to know as Jesus Christ. It's worth noting that no other psalm is referenced in the New Testament as much as this one and the Gospel writers, especially Matthew and John, allude to this psalm a lot especially in the final moments of Jesus on the cross. They are as follows:

- *the cry of abandonment (Ps. 22:1; Matt. 27:46; Mark 15:34)*
- *the mocking of his enemies (Ps. 22:7-8; Matt. 27:43; Luke 23:35)*
- *the agony of his stretched bones (Ps. 22:14)*
- *the parching thirst (Ps. 22:15; John 19:28-29)*
- *the digging holes into his hands and feet (Ps. 22:16; John 20:27)*
- *the gloating of the crowds (Ps. 22:17; Matt 27:39-40)*
- *the casting lots for his garments (Ps. 22:18; Matt. 27:35; Mark 15:24; John 19:23-24)*

(If you've picked up a copy of the sermon manuscript, you will see the list I just mentioned and I encourage everyone to take the time to go through them in your personal study.)

Who is David? (Superscript)

After that long introduction, let's take a look at the beginning of our passage today. Please open your Bibles to Psalm 22 and I want you to take a look at the italicized text (which is called the superscript) just after the chapter heading. It reads, "*To the choirmaster: according to the Doe of the Dawn. A psalm of David.*" Superscripts, as Pastor Ben has mentioned before, are part of the ancient text and they help provide context to the psalm. In this case, we don't know what the tune of the *Doe of the Dawn* sounded like but we do know that this was written by David whom we know was the king that God has chosen to rule over Israel.

King, Type, Prophet

Kings, particularly the kings of Israel, played an important role as they were the ones chosen by God to lead His chosen people. They were to keep God's commandments and teach them to the people of Israel. Kings represented the nation and ultimately God. King David is considered to be *the* standard of a king from which all other kings were placed against. It was also through his family that God promised a savior (Christ) king who would rule forever. Because of this, David can also be seen as a *type* of Christ wherein his life and role would foreshadow that of the promised savior. It is also noted that the Gospel writers acknowledge David as a *prophet* who spoke of Jesus (Matt. 22:41-43; Luke 24:44; Acts 2:30-31). David's kingly, typical, and prophetic role will help guide us through this psalm because although, it is David speaking, the language he uses goes beyond his

own experience and directly corresponds to that of Jesus Christ. Let's continue reading to discover this.

David's Lament and Confidence in God's Past Faithfulness (1-10)

1 My God, my God, why have you forsaken me? Why are you so far from saving me, from the words of my groaning? 2 O my God, I cry by day, but you do not answer, and by night, but I find no rest. 3 Yet you are holy, enthroned on the praises of Israel. 4 In you our fathers trusted; they trusted, and you delivered them. 5 To you they cried and were rescued; in you they trusted and were not put to shame. 6 But I am a worm and not a man, scorned by mankind and despised by the people. 7 All who see me mock me; they make mouths at me; they wag their heads; 8 "He trusts in the Lord; let him deliver him; let him rescue him, for he delights in him!" 9 Yet you are he who took me from the womb; you made me trust you at my mother's breasts. 10 On you was I cast from my birth, and from my mother's womb you have been my God. Here we see David crying out to the Lord for he feels abandoned by Him (22:1-5) and by the people (22:6-10). We have no real idea at which point of David's life this psalm was written but his use of language gives us an idea of how intense this was for him. His feeling of divine abandonment foreshadows that of Christ on the cross when he cries out, "*Eli, Eli, lema sabachthani?*" That is, "*My God, my God, why have you forsaken me?*" (Matt 27:46) But despite that feeling, the psalmist uses the key word, "*yet*" to turn his complaint into confidence. David never loses hope and remembers the faithfulness of God to the fathers of Israel (22:3-5), and in his own life (22:9-10). This confidence and faith in God made it possible for David to cry out and turn to God for help even if everyone around him was mocking him (22:7-8). Similarly, when Christ was praying in the Garden of Gethsemane, after his plea to have the cup taken away, he confidently puts His trust in the Father and His will by saying, "*Yet not what I will, but what you will.*" (Mark 14:36)

David's Lament and Petition (22:11-21)

David continues: *11 Be not far from me, for trouble is near, and there is none to help. 12 Many bulls encompass me; strong bulls of Bashan surround me; 13 they open wide their mouths at me, like a ravening and roaring lion. 14 I am poured out like water, and all my bones are out of joint; my heart is like wax; it is melted within my breast; 15 my strength is dried up like a potsherd, and my tongue sticks to my jaws; you lay me in the dust of death. 16 For dogs encompass me; a company of evildoers encircles me; they have pierced my hands and feet— 17 I can count all my bones—they stare and gloat over me; 18 they divide my garments among them, and for my clothing they cast lots. 19 But you, O Lord, do not be far off! O you my help, come quickly to my aid! 20 Deliver my soul from the sword, my precious life from the power of the dog! 21 Save me from the mouth of the lion! You have rescued me from the horns of the wild oxen!* The first part of verse 11 gives us a preview of what will happen in the next few verses as David gives a lament and a short petition. David uses descriptions of animals to express his persecution from enemies in verses 13-16 and then relays his own condition in verses 17-18 and then finally gives his request to God in verses 19-21. The animals written here create a vivid image of the enemies of David. Bulls and lions are very powerful animals and the dogs here are not like the cute lovely pets we have now, they were the wild and dangerous ones. (Kind of like Dingos from Australia, maybe.) Now imagine yourself being thrown into a cage with these three animals who want to harm you. That is the picture of helplessness and fear that the psalmist wants us to see about his situation. But David despite all this, turns to the Lord, his help, and asks Him to reverse the situation he is in! (David also does it in such a beautiful and poetic way, too, as he continues the imagery of animals but this time, in reverse order!) David asks God to "*come quickly*" (22:19) and save him from death (22:20-21). And having expressed his request, we then get a glimpse of David's full confidence and trust in God as gives his praise to Him in these last set of last verses.

David's Praise (22:22-31)

He says: *22 I will tell of your name to my brothers; in the midst of the congregation I will praise you: 23 You who fear the Lord, praise him! All you offspring of Jacob, glorify him, and stand in awe of him, all you offspring of Israel! 24 For he has not despised or abhorred the affliction of the afflicted, and he has not hidden his face from him, but has heard, when he cried to him. 25 From you comes my praise in the great congregation; my vows I will perform before those who fear him. 26 The afflicted shall eat and be satisfied; those who seek him shall praise the Lord! May your hearts live forever! 27 All the ends of the earth shall remember and turn to the Lord, and all the families of the nations shall worship before you. 28 For kingship belongs to the Lord, and he rules over the nations. 29 All the prosperous of the earth eat and worship; before him shall bow all who go down to the dust, even the one who could not keep himself alive. 30 Posterity shall serve him; it shall be told of the Lord to the coming generation; 31 they shall come and proclaim his righteousness to a people yet unborn, that he has done it.* David's shift in the psalm is so sudden and dramatic and so different from how he began. From what started with intense feelings of abandonment and complaint to being with his brothers proclaiming God's name. David praise God for his salvation from death and a future kingdom (22:28-31). And David expands his praise from his brothers (22:22), to sons of Israel/Jacob (22:23), and to all nations and coming generations (22:27-31). David wants all generations to hear his testimony of God's salvation from death because even though God delayed his help in David's difficult situation, God upheld ultimate justice and saved the king from death.

Psalm 22 gives us a good model of faithful suffering. David brings his difficulty to the Lord and puts his confidence and hope in God's past faithfulness. He then openly expresses his request and gives praise to God. But more than this, David's language in the psalm also point us forward to the One who will deliver us from death, Jesus Christ. For as far as we know, we don't know of a time when David went through so much as that his appearance was as disfigured as he described in 22:14-15 and 22:17. Scripture doesn't tell us of a time when his bones were out of joint, or his tongue sticking to his jaws, or that his hands and feet were pierced, nor was there ever a time when people cast lots for his clothes (22:18). But because David was also prophet, we understand that this paints a picture of the crucifixion which is something David never knew about! This is where Psalm 22 is fulfilled in the New Testament because it describes the very sufferings of Jesus Christ himself, the long awaited Messiah from the line of David! Matthew 27:39-46 reads:

And those who passed by derided him, wagging their heads and saying, "You who would destroy the temple and rebuild it in three days, save yourself! If you are the Son of God, come down from the cross." So also the chief priests, with the scribes and elders, mocked him, saying, "He saved others; he cannot save himself. He is the King of Israel; let him come down now from the cross, and we will believe in him. He trusts in God; let God deliver him now, if he desires him. For he said, 'I am the Son of God.'" And the robbers who were crucified with him also reviled him in the same way. Now from the sixth hour there was darkness over all the land until the ninth hour. And about the ninth hour Jesus cried out with a loud voice, saying, "Eli, Eli, lema sabachthani?" that is, "My God, my God, why have you forsaken me?" (Matt. 27:39-46)

It is Christ's voluntary death on the cross for our sins that saved us from death. He is the king that represented his people and took he punishment for our sin. Jesus felt the abandonment of God, weakness before enemies, and the destruction of his body all while trusting the Lord and His will just as David described it and just as Matthew confirmed it for all those who read it then and for us who read it now. This then is why we, as believers, as those who have experienced this salvation that David testifies about, should give God all the praise. Because although there will surely be times where we will go through suffering, maybe some of us already are, we have a God who is

faithful and has already saved us. And so our gatherings on Sundays should reflect and remind us of this for when we join together to sing, hear, and live in the Gospel of Jesus Christ, we strengthen each other and help each other.

Brothers and sisters, the Gospel of Jesus Christ, the salvation that we have, is something that we should never be tired of hearing! Our lives must be centered on it! We must always remember it in whatever we do or say and that's why King David wished for everyone to proclaim and teach it and that's why Jesus himself commissioned his disciples to do so before He left (Matt 28:19-20). So whether you have been a Christian for many years or for a month, you need to regularly be reminded of this truth to yourselves, to our families, our friends, to Japan, and to the world. And today, by God's grace, we get to remember and teach his salvation together and to each other through the Lord's Supper. After all, it was Jesus, himself, who has taught us this way of remembering what He has done for his people, the believers — the Church.

Now to the unbeliever, we are glad you have come to join us today. It is our hope that you have seen how the Gospel has changed and is continuing to change our lives. If you are going through a difficult time as the psalmist did or have come to find that all other things just don't seem to work, I have good news for you. There is a king who has gone through suffering and triumphed over death and this victory can be yours too. All you need to do is put your trust and confidence in him, Jesus Christ, the forever king. As David's final statement goes, *28 For kingship belongs to the Lord, and he rules over the nations. 29 All the prosperous of the earth eat and worship; before him shall bow all who go down to the dust, even the one who could not keep himself alive. 30 Posterity shall serve him; it shall be told of the Lord to the coming generation; 31 they shall come and proclaim his righteousness to a people yet unborn, that he has done it.* Let's pray.